

2020年度公立高校前期選抜試験の出題傾向

全体的に難易度低下

国語

大問6は物語文の読解問題である。時代小説のため、言葉や背景を理解することが求められた。そのため、やや難しく感じられたか。ただし、内容自体は分かりやすいものだった。記述は例年通り、自分の言葉で書く句の鑑賞を題材に、出題が括まる形となっていた。言葉の知識や表現の仕方が問われていた。

記述は条件設定複雑

数学

問題構成は大問が5題で、昨年度前期と同様であり、各小問の配点も同じである。(1)は問題構成は大問が5題で、昨年度前期と同様であり、各小問の配点も同じである。(1)は問題構成は大問が5題で、昨年度前期と同様であり、各小問の配点も同じである。

オリ・パラ絡め問う

社会

全体の構成は、昨年と同じで大問が8つあった。配点は昨年や資料に触れて、「なぜそうなるのか」という因果関係に関心をもち、必要となる点増となっている。小問数は昨年と同じ32問であった。

思考・判断・表現試す

英語

出題形式は昨年と同じで大問1から大問9の構成で、配点も昨年と同様であった。大問1から大問4はリスニング。配点も昨年同様33点だった。

計算問題かなり多く

理科

昨年度前期と同じ大問9題の構成であった。例年通り、物理・化学・生物・地学からバランスよく出題された。

2020年度は、知り合いの塾の先生にも執筆協力をお願いしました。

国語(三島先生/TEC 東金進学教室)、英語(須田先生/明育学院・木更津市)、数学(小高先生/小高進学塾・大網白里市) 理科(金坂/進学塾好学会)、社会(田口/青葉予備校)